JA鳥取いなばの特産品集荷車
──高齢者と「農村サロン」の農業を支援──

主事研究員　寺林暁良

農業の姿は、地域のなかでも規模によって、担い手によって多様であるが、農村での暮らしの豊かさや安心感といった観点では、高齢者の生きがいや交流につながるような小規模な農業の意義も無視できない。そこで、このような農業を特産品集荷車の導入によって支えるJA鳥取いなばの取組みを紹介しよう。

1　高齢者の農業を支える特産品集荷車

JA鳥取いなばは、中山間地域に住む高齢者を見守り、生きがいとしての農業を続けてもらうことを目的として、2017年２月に管内の岩美町で特産品集荷車の運行を開始した。

きっかけは、岩美町が鳥取県と日本財団の共同プロジェクト「中山間地域生活支援モデル事業」の対象となり、その一環として「特産品出荷支援体制及び移動販売体制の整備」が企画されたことである。JA鳥取いなばには09年から町内で移動販売車を運行してきた実績もあるため(注1)、岩美町の諸団体で構成される協議会を通じてこの取組みを受託することになったのである。

特産品集荷車は、軽トラックを改造した保冷車で、JA鳥取いなばが日本財団より寄贈を受けた(写真１)。ドライバーは、JA鳥取いなば岩美支店の職員が交替で務めている。午前中に運行され、事前に連絡を受けた高齢者宅を巡回して特産品(農産物や加工品)を集荷する。

集荷物は岩美町の中心部にある道の駅「きなんせ岩美」の直売所で販売される(注2)。同直売所の人気は高く、特産品集荷車の集荷物も売り切れることがほとんどである。これは、特産品集荷車を利用する高齢者のやりがいと良い品を作る動機づけにつながっており、これまで自家消費分の耕作しか行ってこなかった高齢者のなかにも、特産品集荷車での販売を見越して耕作面積や作目を増やすケースが出始めている。

写真１　JA鳥取いなばが運行する特産品集荷車

2　「農村サロン」からの定期集荷

また、特産品集荷車は、町内の岩常集落と院内集落で運営される「農村サロン」からの定期集荷も行っている。

この「農村サロン」も鳥取県と日本財団の共同プロジェクトの一環として始まったもので、集落が交流拠点としてビニールハウスを運営することにより、集落内の高齢者が交流しながら、一緒に生きがいとしての農業を行える場を作ろうという取組みである。

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

事例として、岩常集落の「農村サロン」を紹介しよう。岩常集落は、人口263人、72世帯(10年国勢調査)の中山間集落である。以前から高齢者交流に取り組んできたが、日常的な交流機会をさらに拡大するために「農村サロン」の取組みに手を挙げた。

岩常集落の「農村サロン」である「ひまわりハウス二上」は２棟のビニールハウスからなり、17年３月に竣工した(写真２)。県道沿いの集落の入口にあり、交流拠点として申し分ない立地である。事業の実施主体は岩常集落の自治会であるが、集落営農組織として20haの水田を受託する農事組合法人「ドリームファーム二上」も一体的に運営に参画している。

「ひまわりハウス二上」では日常的に４～５人の高齢者が農作業を行っており、なかには企業を定年退職して初めて農業に携わった方もいる。また、イベントや一斉作業の際には集落内から数十人の参加がある。

ビニールハウスのうち１棟の入口側には腰かけて話ができるサロンスペースがあり、農作業の合間には集まった人びとが世間話や農業の話で盛り上がる。また、高齢者だけではなく、放課後には児童も集まり、農作業を手伝ったり、宿題をしたりと、世代を超えた交流の場にもなっている。薪ストーブを備えるため、農作業とサロンでの交流は冬季でも可能である。

特産品集荷車の利用は17年５月から始まったが、それ以来、ほぼ毎日出荷が続けられている。これまでの作目はホウレンソウ、大玉トマト、ミニトマト、インゲン、サニーレタス、パクチーなどだが、今後も集落の農家や集落営農組織、JA職員と相談しながら「農村サロン」の運営に合った作目や営農方法を探っていきたいという。

写真２　「農村サロン」として運営される岩常自治会の「ひまわりハウス二上」

また、特産品出荷車を通じた出荷物の売上げは、現在は「ひまわりハウス二上」の運営資金に充てているが、今後収益が安定すれば、農作業に携わる高齢者にも還元したいと考えているという。

3　特産品集荷車の意義

JA鳥取いなばの特産品集荷車は、高齢者の生きがいや交流に結び付いた農業を支えるしくみとして機能している。JAはさまざまな形で地域の暮らしを支えているが、農業支援がすなわち暮らしの支援となるこの取組みは、JAらしい、あるいはJAだからこそ大きな役割を果たしうる暮らしの支援の方法として注目されよう。

（てらばやし　あきら）

(注１)木村俊文(2016a)「JA鳥取いなばの移動販売車の取組み」『農中総研　調査と情報』９月(第56)号を参照のこと。

(注２)木村俊文(2016b)「道の駅で地方創生―鳥取県『きなんせ岩美』―」『農中総研　調査と情報』３月(第53)号を参照のこと。